

菊池コレクション

現代陶芸のすすめ



1. 鯉江良二「証言」1982年 菊池コレクション

2025年1月18日(土)~5月6日(火)

菊池寛実記念 智美術館

東京都港区虎ノ門4-1-35 TEL 03-5733-5131

※プレスプレビューのご案内は最終ページです。

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、菊池寛実記念 智美術館の活動にご理解とご協力を賜り、誠に有難うございます。この度は、2025年1月18日から5月6日まで開催いたします「菊池コレクション 現代陶芸のすすめ」展をご案内させていただきたくプレスリリースをお送りいたします。

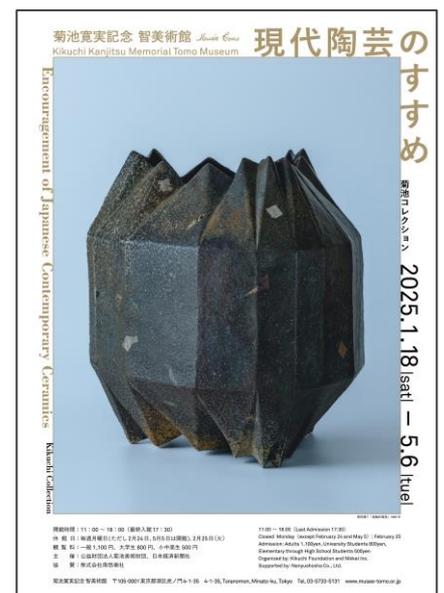
陶芸といえば日用陶器や茶陶をはじめとした道具としての器を想像されるかもしれませんが、しかし、現代の陶芸には器の形態を用途や機能ではなく立体造形としてとらえる視点があり、また、素材や技法、伝統など陶芸にまつわる要素を独自の視点でとらえたオブジェ的な造形作品が存在します。個人作家によって展開される多様な制作、その未知なる思考、美意識に当館設立者の菊池智（1923～2016）は魅了され、20世紀後半以降の日本の陶芸作品を精力的に蒐集しました。そして、1983年には自身のコレクションによる展覧会「Japanese Ceramics Today（現代日本陶芸展）」をスミソニアン国立自然史博物館のトーマス・M・エバンスギャラリー（米・ワシントン）で開催します。当時40代から50代であった作家たちの作品を中心に構成し、日米の貿易摩擦が問題となるさなかに日本の同時代の文化を紹介する展覧会が受け入れられた経験は、菊池がその後、文化事業に注力していく契機ともなりました。

本展では、同展出品作をはじめ、1970年代から80年代の作品を中心に日本の現代陶芸の展開をご覧いただきます。

つきましては、この展覧会を多くの皆様にお知らせいただき、周知にご協力を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

■展覧会概要■

- 展覧会名 「菊池コレクション 現代陶芸のすすめ」展
- 会 期 2025年1月18日（土）～5月6日（火）
- 観 覧 料 一般 1,100 円／大学生 800 円／小中高生 500 円
- 主 催 公益財団法人菊池美術財団、日本経済新聞社
- 協 賛 株式会社南悠商社
- 会 場 菊池寛実記念 智美術館
- 開館時間 11:00～18:00（最終入館 17:30）
- 休 館 日 月曜日（ただし、2/24、5/5 は開館）、2/25（火）
- 展示内容 コレクションから 1970年代から80年代の作品を中心に約 60 点。
- 関連行事 学芸員のギャラリートーク（いずれも土曜日 15 時から）2月1日、22日／3月15日／4月26日



■貸出し画像



2. 荒木高子「岩の聖書」1981年 菊池コレクション



3. 加守田章二「彩色壺」1972年 菊池寛実記念 智美術館



4. 河本五郎「色絵渦紋飾瓶」1982年 菊池コレクション



5. 和太守卑良「杉文炆器」1981年 菊池コレクション



1. 鯉江良二「証言」1982年 菊池コレクション



6. 八木一夫「黒い花」1964年 菊池寛実記念 智美術館

— 菊池寛実記念 智美術館ができるまで 菊池智の軌跡 —

■現代陶芸への想い

菊池智がやきものと出会ったのは1940年代前半、第二次世界大戦中のことです。土が炎に包まれて新たな姿へと生まれ変わる様に鮮烈な印象を受け、終戦後10年ほどたった1950年代後半からやきものの蒐集をはじめます。当初は数寄者や専門家と交流し、古美術や古陶磁へ向かった視線が、やがて未知なる美として現代の作品をとらえるようになります。そして、蒐集に留まらず、その魅力を伝えるためにギャラリー開設へと展開しました。



菊池 智(1923～2016年)

■現代陶芸のギャラリー「寛土里」開設

1974年にホテルニューオータニのロビー階にギャラリー、現代陶芸「寛土里」(かんどり)をオープンします。第1回目の個展は、当時、東京藝術大学の教授であった藤本能道に依頼しました。

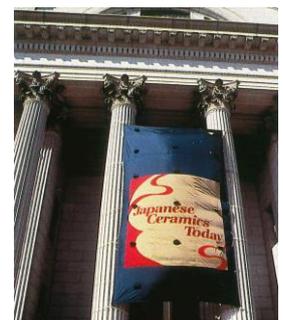
藤本との縁で寛土里では東京藝術大学出身の若手陶芸作家を多く紹介することとなりますが、その後次第に対象は全国の作家へと広がっていきます。そして1979年、ニューヨークの老舗百貨店「ブルーミング・デールズ」に寛土里が出店し話題となり、スミソニアン国立自然史博物館(米・ワシントン)のキュレーターと知り合うこととなります。



店内写真(ホテルニューオータニ6階ロビー階)

■スミソニアン博物館で開催した「Japanese Ceramics Today (現代日本陶芸)」展

スミソニアン国立自然史博物館のトーマス・M・エバンスギャラリーで日本の現代陶芸を紹介する展覧会開催の誘いがあり、1983年2月11日から4月3日までの会期で「Japanese Ceramics Today, Masterworks from the Kikuchi Collection (現代日本陶芸展)」が開催されました。展示作品はすべて菊池智のコレクションで構成され、作家約100人、作品点数およそ300点という大規模な展示でした。出品作家の半数以上が40歳代、50歳代の作家たちで、同時代の日本の陶芸作品を欧米に紹介する展覧会となりました。本展は好評を博し、同年5月18日から7月17日までヴィクトリア&アルバート博物館(英・ロンドン)に巡回しました。日米の貿易摩擦が問題となるさなか、日本文化を紹介する展覧会が受け入れられたことで、文化交流が相互理解を生むことを体験した智は、文化事業の重要性を意識していくこととなります。



また、スミソニアン博物館の展示デザイナーであったリチャード・モリナロリとの出会いによって、展示デザインが作品鑑賞に与える影響についても学ぶこととなります。

■菊池ゲストハウスで開催した3つの展覧会

智は作品と展示によって空間そのものを作り上げる展覧会を日本でも開催しようと考えます。その試みとして3つの展覧会を企画しました。開催場所は現在、当館がある敷地で、かつては父の菊池寛実が活動の拠点としており、寛実亡き後はゲストハウスとして使用していました。その応接ホールを改装して展示空間としたのです。

展示デザインはリチャード・モリナロリに依頼しました。展示作品に合わせたデザインを依頼し、3回とも全く趣の異なる空間で展示を行いました。

1回目は1985年に開催した鈴木藏（おさむ・1934-、現在・「志野」の重要無形文化財保持者）の個展「流転生」です。会席用の和食器の揃いを発表した展覧会で、流水の生生流転の様を絵巻物風に器で表したものでした。

2回目は1990年に開催した十五代樂吉左衛門（1949-）の個展「天問」。400年以上続く樂家の伝統を基盤に、当代の造形表現の在り方を示した重要な展覧会となりました。

3回目は1992年に開催した藤本能道（よしみち・1919-1992、「色絵磁器」重要無形文化財保持者）最後の個展「陶火窯焰」。この展覧会を3月に開催し、藤本は同年5月に逝去しました。命との対峙を想像させる濃密で幻想的な作品世界が表された藤本の集大成となった展覧会です。



樂吉左衛門 個展「天問」
展示室 1990年



藤本能道 個展「陶火窯焰」展示室 1992年

■菊池寛実記念 智美術館 開館

1995年に実兄の死去に伴い、千葉県市川市に本社を置く京葉ガス株式会社の会長職をはじめ、智は多くの事業を引き継ぐこととなります。一方で菊池ゲストハウスでの展覧会を経て、現代陶芸を継続的に紹介する良質な空間をつくる決意をします。そして、財団法人菊池美術財団を設立し、2003年に菊池寛実記念 智美術館を開館しました。菊池ゲストハウス同様に展示空間のデザインをリチャード・モリナロリに依頼します。20年来の信頼関係によって、日本の陶芸作品を鑑賞するための空間が出来上がりました。



「Japanese Ceramics Today」展 展示室 2003年



「走泥社再考」展 展示室 2024年

■本展覧会について広報媒体へ掲載、取材をいただく場合、本リリースで紹介されている作品画像をデータでお貸し出しいたします。申込書のご希望の作品に☑を記し、用紙を返信のうえ、お問い合わせください。

ご紹介いただく記事、番組内容については、情報確認のため校正の段階で事務局までお知らせください。

お貸し出しする画像データは本展覧会終了をもって使用期限とさせていただきます。

作品の画像を1点以上ご掲載の上、本展をご紹介くださる媒体に対し、本展ご招待券を読者プレゼント用に提供いたします。申込書のチケット希望欄に☑をしてください。

お問い合わせ先 菊池寛実記念 智美術館（担当：新明・岩崎）

掲載・画像貸出申込書

e-mail: info@musee-tomo.or.jp

●貴社基本情報

会社名:	
担当部署:	担当者名:
住所:	
電話・FAX	E-MAIL:

●媒体情報

新聞 雑誌	媒体名:
	発行日:
TV ラジオ	媒体名:
	放送日:
ネット	URL:

●画像貸出リスト ※キャプションには作者・作品名・制作年・所蔵者・撮影者を必ず入れてください。

希望作品に☑	作品キャプション
<input type="checkbox"/>	(表紙・1) 鯉江良二「証言」1982年 h37.4×w36.0×d41.0cm 菊池コレクション(撮影:阿部紗夕里)
<input type="checkbox"/>	(2) 荒木高子「岩の聖書」1981年 h16.5×w28.0×d20.0cm 菊池コレクション(撮影:伊藤ゆうじ)
<input type="checkbox"/>	(3) 加守田章二「彩色壺」1972年 h15.0×w25.0×d15.0cm 菊池寛実記念 智美術館(撮影:道忠之)
<input type="checkbox"/>	(4) 河本五郎「色絵渦紋飾瓶」1982年 h34.2×w22.0×d19.5cm 菊池コレクション(撮影:道忠之)
<input type="checkbox"/>	(5) 和太守卑良「杉文炆器」1981年 h43.5×w23.0×d17.4cm 菊池コレクション(撮影:阿部紗夕里)
<input type="checkbox"/>	(6) 八木一夫「黒い花」1964年 h15.5×w20.0×d17.0cm(台を含まない) 菊池寛実記念 智美術館(撮影:田中学而)
<input type="checkbox"/>	(チラシ表面)

●読者プレゼント用チケット希望: 5組10名様 10組20名様

プレスプレビューのご案内

展覧会の趣旨、作品解説など、内覧会に先立ちましてプレスの皆様にご説明申し上げます。
ご多用のなか恐縮に存じますが、どうぞご出席くださいますようお願い申し上げます。

菊池寛実記念 智美術館

プレスプレビュー 2025年1月17日(金) 14:00～

14:00～14:45 展示室にて、展覧会のご説明、作品解説などを行います。
展覧会の会場内をご撮影いただけます。

14:45～15:00 皆様からのご質問にお答えいたします。

会場： 菊池寛実記念 智美術館 〒105-0001 港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル B1

- ・日比谷線・神谷町駅出口 4b より徒歩 6 分
- ・日比谷線・虎ノ門ヒルズ駅：出口 A2a 徒歩 8 分
- ・南北線・六本木一丁目駅改札口より徒歩 8 分
- ・南北線／銀座線・溜池山王駅出口 13 より徒歩 8 分
- ・銀座線・虎ノ門駅： 出口 3 より徒歩 10 分

ご出席いただける場合は、下記フォームにご記入の上、E-mail もしくは FAX にて
ご返信下さい。 **E-mail** info@musee-tomo.or.jp
FAX 03-5733-5132

会社名：	
担当部署、氏名	
住所：	
電話：	FAX：
Email	